

報道発表資料

平成14年10月16日

気象庁

米国の静止気象衛星による「ひまわり5号」のバックアップについて

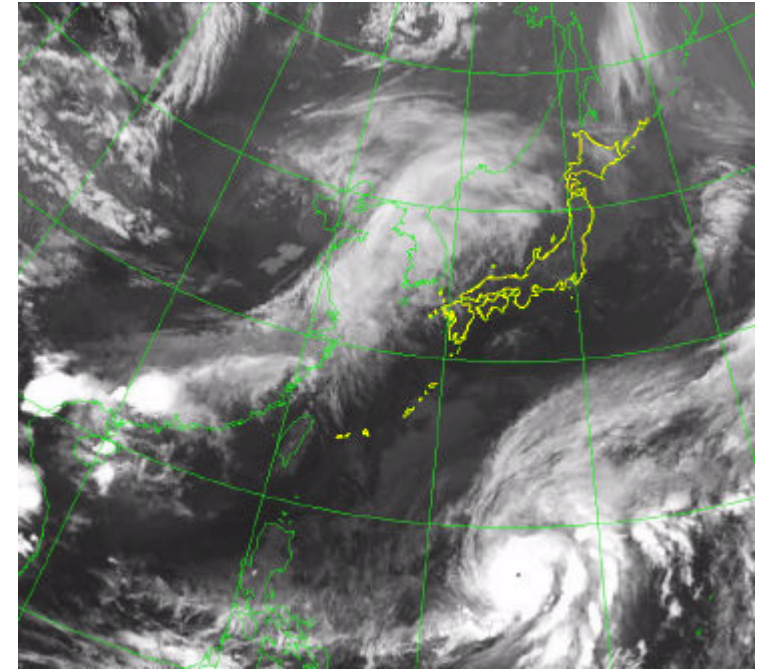
設計寿命を2年半越えて運用を続けている「ひまわり5号」のバックアップとして米国の静止気象衛星を活用することについては、米国政府との間で調整を進め、5月に日米両国の間で交換公文が締結されました。

その後、同交換公文に基づき米国政府と協議を進めた結果、今般、平成15年4月中旬には、米国の静止気象衛星「ゴーズ9号」の正式な運用が可能になりました。

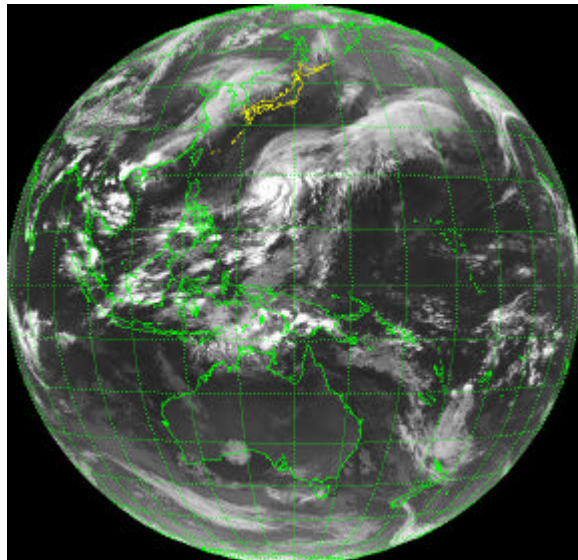
なお、このため、12月中には「ゴーズ9号」の移動を開始させることを予定しております。また、西太平洋上において「ゴーズ9号」を運用するために必要な米国の地上施設の改修工事は、順調に進んでいます。

東経 1 5 5 度から撮像した静止気象衛星画像について

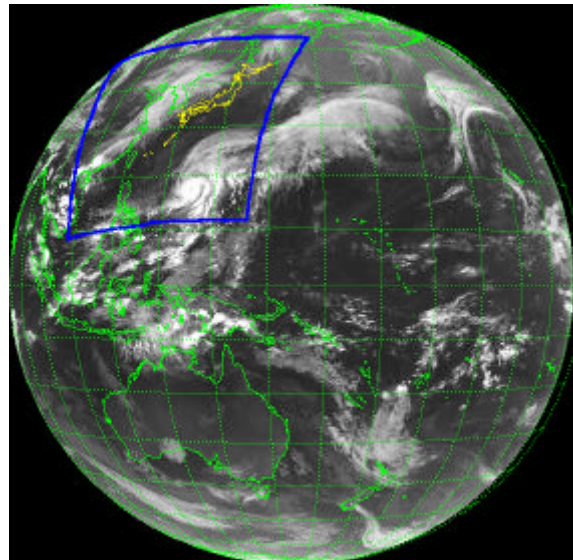
東経 1 5 5 度から撮像した場合（右下）、東経 1 4 0 度からのもの（左下）と比べて日本が観測範囲のやや西側となるものの、これを処理し作成した日本付近の拡大図（右上）のとおりに、我が国周辺の雲画像の作成については、現行（GMS - 5）と同様。



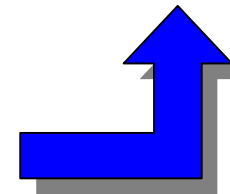
日本付近の拡大図



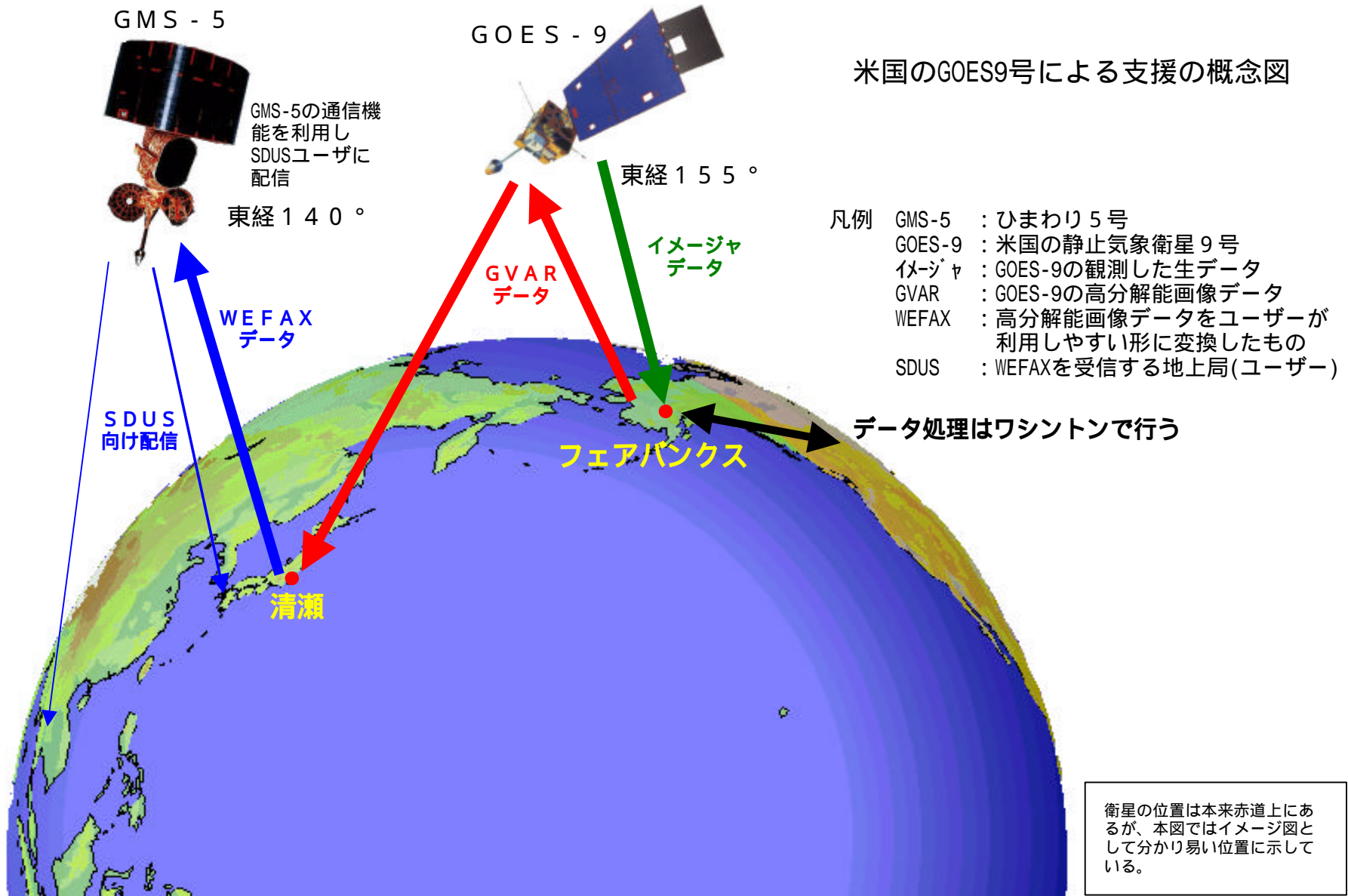
東経 1 4 0 度から撮像した画像
（GMS - 5 によるもの）



東経 1 5 5 度から撮像した画像
（GMS - 5 によるものから作成したイメージ）



青枠部分を拡大



GMS - 5

GOES - 9

GMS-5の通信機能を利用しSDUSユーザに配信

東経 140°

東経 155°

イメージャデータ

GVARデータ

WEFAXデータ

SDUS向け配信

清瀬

フェアバンクス

データ処理はワシントンで行う